

令和元年度 第3回 泉佐野丘陵地緑地 運営審議会（抜粋版）

日時：令和2年3月6日（金）10:00～12:00

場所：泉佐野丘陵緑地 パークセンター

◆概要

1. 前回のふりかえり 10:00～
2. 報告案件 4件
 - ①中地区検討部会報告
 - ②パーククラブ活動内容（2月～3月）及び令和2年度活動計画について
 - ③パーククラブの研修制度について
 - ④その他
3. 協議案件 1件
 - ①（仮称）10周年誌の構成（案）について

<協議案件1：（仮称）10周年誌の構成（案）について>

●10年間の整備の足あと、植生図について

- ・昭和30年代の地図と航空写真があるはずだ。例えば大阪府立大学の研究室には昭和37年と昭和40年くらいの府下全域の航空写真がある。それをスキャンすれば使えるはずである。
- ・植生の凡例について、白黒の記号だと一般的な地図記号と混同してしまう。植生図を薄いパステル調で仕上げ、整備されると濃くなっていく、という整理方法でも良いかもしれない。
- ・植生図について、航空写真と明らかに異なる部分がある。例えば企業の森エリアにはコジイの大木があったが、その周辺は雑木林が残っていた。これらが徐々に竹林に侵食された。
- ・全ての情報を一つの図面で表現することは難しい。植生図であれば、最初の状態の植生図を別に用意してもよいだろう。
- ・植生図は植生図だけで、10年間のうちで初期の段階、5年目の段階、現在の段階、と3段階くらいに分けてもよい。その内容は前中委員にも確認していただきながら進めるとよい。
- ・植生図は航空写真からも判読できるはずである。竹林化したエリアと、竹林と雑木林が戦っているエリアと、純然たる雑木林のエリアなど。

- ・リーディング区域とコラボレーション区域の境界線は示しておいたほうがよい。
- ・公園区域外のソーラーパネルや、臨時駐車場は面積が大きいため目立ってしまう。もう少し存在感を薄くするとよい。
- ・公園の入口からパークセンター前までの道は市道認定されている。それも区別できるようにしておくとうい。
- ・広場として自由利用できる場所と、樹林地などで自由利用できない場所は、ひと目で見てわかるようにしておきたい。
- ・凡例は一般的な地図記号と合わせてほしい。

●運営体制の変遷、エピソードについて

- ・2007年から2009年は室内での議論が中心だが、その時期にもおもしろい内容を扱っている。その内容からエピソードなどを拾うとよいだろう。当時は新しい公共のあり方や、参画のあり方などが確立されていない時代であった。
- ・今回の10周年は大阪府の視点も入れてほしい。パーククラブの視点はもちろんだが、大阪府が行政の立場で課題解決してきたことも重要である。
- ・当時の工区事務所の人たちの座談会などの記事があるといいかもしれない。
- ・運営審議会の議題一覧は資料編に入る予定となっているが、本編にも主要なトピックは載せてもよい。運営審議会での議論とパーククラブの活動の関係性が見えるとおもしろい。
- ・運営体制の変遷について、公園の運営体制、パークレンジャー養成講座、パーククラブの体制について図解されているが、大阪府の体制もこれらと同等に重要である。
- ・年間の整備予算の変遷もわかると、どのように事業展開してきたのかがわかるだろう。予算は概算でも構わない。
- ・大阪府の誰がいつどのように関わったのか、という体制図を巻末に設けてはどうか。
- ・歴代の工区長は6人いる。その当時の職員たちにもヒアリングができるといいのではないかな。

- ・今の年表は、「公園運営」と「パーククラブの取り組み」の内容の精度が異なっている。「公園運営」についても「パーククラブの取り組み」と同様に、具体的に示すとよい。例えば運営審議会の場合は、その時に主題となった議題が書かれているといいだろう。また公共事業として着手した事業がどのように進んできたのか、などもわかるとよい。
- ・年表の内容をより具体的に示すといいだろう。年表が整備の経緯も含めたガイダンスとなり、その後のページに詳細が順次示されていくという構成がよい。
- ・えんづくりプログラムに継続的に関わってくれている人の声をヒアリングしてはどうか。

●情報発信について

- ・多大な労力をかけて制作しているので、出版を考えてはどうか。他の地域でも、山林整備などの経緯を出版物としてまとめた事例がある。内部資料として扱うにはもったいない内容なので、情報発信の1つとして出版も考えてほしい。
- ・デジタル媒体で発行することも考えたい。紙媒体は概要版だけでもいいかもしれない。